

さんむのふるさと散歩

NO.42

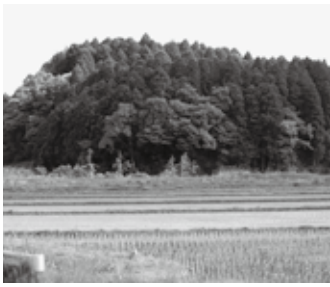
今回は夏の日差しを浴びながら自転車で真行寺から島戸の台地を尋ねて見ましょう。帽子に水筒、汗拭き用のタオルを持っていざ出発。

成東駅をあとにして、国道126号線の旧道をしばらく松尾方面に進みます。境川に架かる往還橋の上で一休み。

北の方角を見ると川の流れを挟み込むように兩岸に緑の台地が見えます。これから訪れる歴史街道の舞台となるところです。

一息ついたところで、今度は川筋を上流に向かって埴谷方面に進みます。

しばらく行くと、道の左側にこんもりと木が茂った小山が見えてきました。



津辺城跡

津辺城です。木にさえぎられて城の様子をうかがうことはできませんが、保存状態は良いそうです。

最近の研究によると、徳川家康の家臣・石川康道が、江戸時代の始めに築城したものだろうとのこと。津辺城を後にして真行寺の集落に入っていきます。

道は家の間を通り、通称「薬師坂」を登って行きます。台地上上がったら道の右側の畑一帯が奈良時代のお寺、真行寺廃寺跡です。



真行寺廃寺跡

お寺の建物は残っていませんが、畑一面にお寺の屋根に葺いた瓦片が散らばっています。

茅葺き屋根の竪穴式住居で暮らしていた当時の村人達に

とって、瓦葺き屋根のお寺は、立派で神々しいものに見えたことでしょう。

さて、道に戻り500m程直進します。道の両側は一面畑が広がり、とてものおんびりとした景色です。

水筒の水を飲んでほっと一息。何気なく道端に目をやると、土器のかけらがころがっています。

実はここ島戸地区は、古代の遺跡で、上総国武射郡の郡衙（郡の役所のこと）推定地なのです。

平成9年から9年間に及ぶ発掘調査で、当時の役所の建物や倉庫などの遺構が数多く見つかりました。

当時は、郡衙に出入りする役人や、税を倉庫に納める荷車の往来でにぎやかだったことでしょう。

今度は、北東方向に伸びる小道に進みます。小道の先に杉林があります。中に入ってみましょう。林内はよく手入れされており、見通すことができます。

ここは真行寺古墳群のエリア内で、円墳・方墳・前方後円墳など、保存状態の良い古墳を間近に見ることが出来ます。

その中でひととき大きくて

立派な方墳をみつけました。近くに行ってみましょう。

おや、古墳の脇にあやしい人影がいや、石造物があるぞ。



市指定有形文化財「石仏」

なんだこれは？よく見ると1mほどの自然石に人の顔が彫られています。

その素朴な表情が木立の間からみえる様子は、子どもが林の中でかくれんぼをしているかのようです。

この石造物がいつ、どのような目的で立てられたのか判っていません。

不思議だなんて思ってながめてみると、一瞬石造物が、ニヤリとしたような気がしました。

石造物に別れをつけ、もってきた道に戻りましょう。先ほど一息ついた広い道まで出てきました。

今度はハンドルを戸田方面に向けて発進！（のぎくプラザ1階において、8月より『歴史街道をゆく』展示予定。）

さんむ文芸

成東短歌会

五月田をつばめの親子かのびのびと
苗に触れつつ低く飛びゆく
長谷川晃江

たんぼの綿毛はまるくふくらみぬ
幼摘みては風にとばしぬ
岩澤 俊夫

旧姓で呼び合ふ友らと春の午後
ジョッキ四杯空けて語らふ
渡辺 幸子

老人カーを六台連ね歩みゆく
道に人らの視線浴びつつ
成川 澄子

横堀に囲まれるたる屋敷より
流れ来る香は柚の花ならん
川島 隆